



ニュースリリース 平成 24年 5月 24日

<企画展>「精緻な風景画 木象嵌の魅力」のご案内 ～常陽史料館～

常陽銀行(頭取 寺門 一義)は、このたび、常陽史料館(館長 館野 孝男)において下記のとおり企画展「精緻な風景画 木象嵌^{もくぞうがん}の魅力」を開催いたします。

木目や色合いの異なる木を地板に嵌め込む「木象嵌」。正倉院の宝物にも見られるほど古くからある技法で、当時は「木画」と称されていました。明治時代になると糸鋸ミシンの導入により、板を切り抜いて嵌め込む技法へと変化し、その技は現在まで受け継がれています。

ひたちなか市在住の深作修一さんは、約 20 年にわたり「木象嵌」の制作を続けてきました。深作さんの作品の主なモチーフは、水辺の風景やヨーロッパの街並み。絵具の代わりにパズルのピースのように組合わせた木片を使い絵画に仕上げていきます。素材となる木の染色は行わず、自然の木目や色合いを生かして水や煉瓦を表現。5 mmの板に製材した木材を、ひとつひとつ電動糸鋸で切り抜き、数百ピースあるいは千ピース程の木片を作り、木の板に嵌め込むという根気のいる作業の繰り返しにより作品を仕上げていきます。

トチやシナの白、黒檀やローズウッドの黒、パドックの赤、ニガキの黄、ホウの緑で、素材ごとの微妙な色合いや肌合いを生かすことで、水彩画を思わせる表現を可能にしています。

本展では、天然木が醸し出す、温もりと優しさが漂う精緻な木象嵌の世界を約 50 点の作品により紹介いたします。

つきましては、多くの皆さまにご覧いただけますようご高配を賜りたくご案内申し上げます。

記

- 会 期：5月29日(火)～7月22日(日)
- 休 館 日：毎週月曜日
- 開館時間：10:00～17:45
- 会 場：常陽史料館 アートスポット(入場無料)

以 上